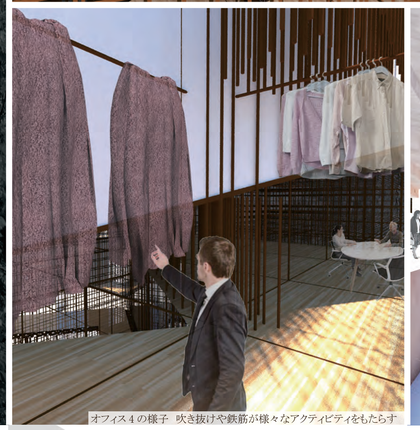
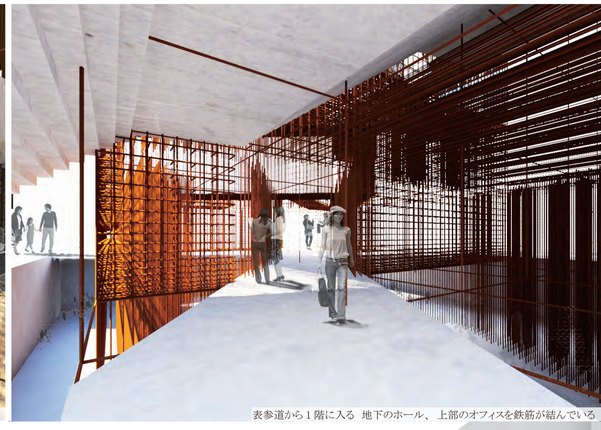
裏ノ裏参道ビル

「高級ブランドから古着まで、多種多様なファッションが存在する表参道。
しかし、私たちが知っているのは店の「表」に並べられた最終形の姿だけである。
そこで、衣類ができるまでの過程＝「裏」を魅せる、複合建築を提案する。
その裏空間で人々はファッションの価値や魅力を知りながら、様々な体験をする。
ファッションと人々を通して、裏ノ裏参道は、表参道から周辺へと延び広がっていく。

生地の楽園を覗く、大きなヴォイドの美しい空間が、外にも表情として現れる


オフィス４の様子　吹き抜けや鉄筋が様々なアクティビティをもたらす


表参道から１階に入る　地下のホール、上部のオフィスを鉄筋が結んでいる

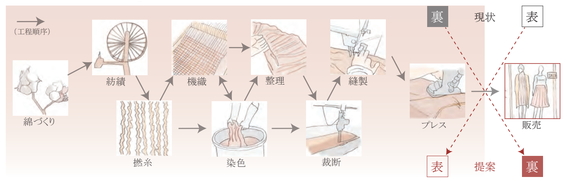
I Omotesando

高級ブランドから古着まで多種多様なファッションと、それらを象徴する建築が「表」に立派に建ち並ぶ表参道。国内だけでなく世界中から人々が集まるこの地は、情報を発信し伝えていくポテンシャルを持っている。

II Fashion

一方、途上国ではファストファッション工場の崩壊に見られるよう、労働環境が大きな社会問題となっている。また日本国内の衣類品廃棄量は年間約100万トンにも上っており、ファッション業界の「裏」には多岐に問題が及んでいる。

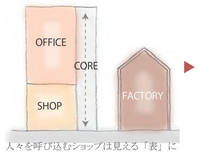
III Reverse background



綿から製品となるまでに少なくとも10以上の工程があるが、我々が見るのは製品として表に出荷された部分だけである。そこで原料から加工、デザインといったこれまで裏の工程を表に魅せ、表の販売をあえて裏に取り込むことでファッションへの認識を変えることを目指す。

IV Constitution

1. 現状

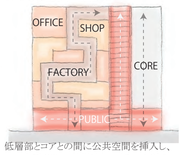


人々を呼び込むショップは見える「表」にあるが、オフィスや「裏」の工場は人々の目に入るところにない。

2. 機能の複合

ショップとオフィスを混合し、それらの間を縫うように裏を動線化して組み込む。コア部を分け、自由なプランを確保する。

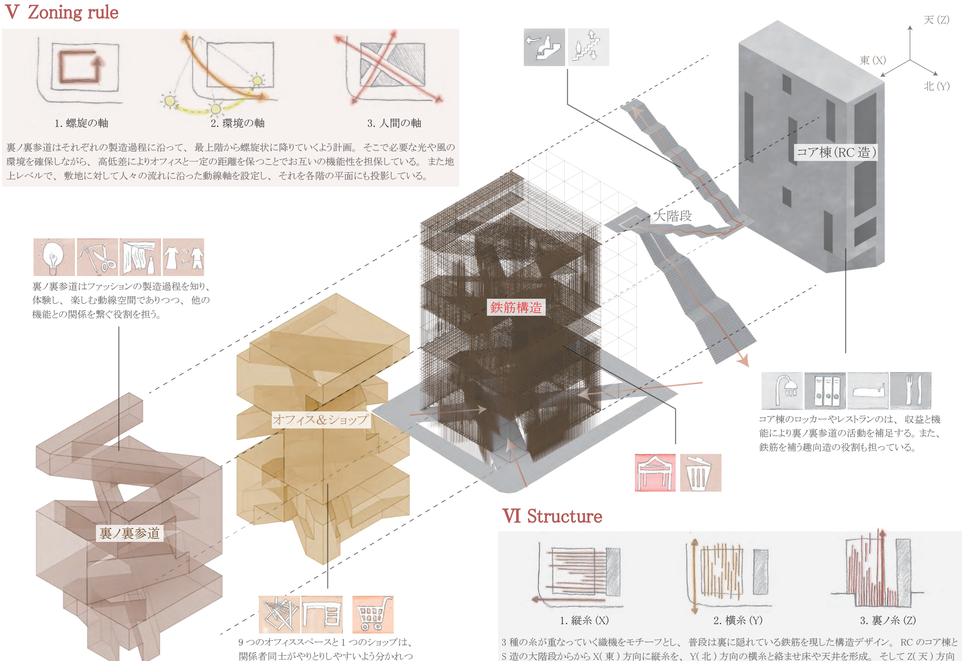
3. 公共空間の挿入



低層部とコアとの間に公共空間を挿入し、人々を呼び込む仕掛けをつくる。３種の動線が多様な人々の交流を生む。

V Zoning rule

裏ノ裏参道はそれぞれの製造過程に沿って、最上階から螺旋状に降りていくよう計画。そこで必要な光や風の環境を確保しながら、高低差によりオフィスと一定の距離を保つことでお互いの機能性を担保している。また地上レベルで、敷地に対して人々の流れに沿った動線軸を設定し、それを各階の平面にも投影している。



VI Structure

３種の糸が重なっていく織機をモチーフとし、普段は裏に隠れている鉄筋を現した構造デザイン。RC のコア棟と S 造の大階段からから X(東) 方向に縦糸を、Y(北) 方向の横糸と絡ませ床や天井を形成。そして Z(天) 方向に延ばした裏ノ糸は壁や柱となり、裏のような表（ファサード）を形成する。

VII Section Perspective (S=1:200)

伝承と環境
参道の始まりである綿と藍の庭園。衣類製造の原点を知らせながら環境にも配慮し、青山通りと表参道を望めるスポット。

構造と空間
鉄筋は構造の役割だけでなく、時に手すりや梁となることで、物を掛けたり飾ったりといった機能をもたらす。

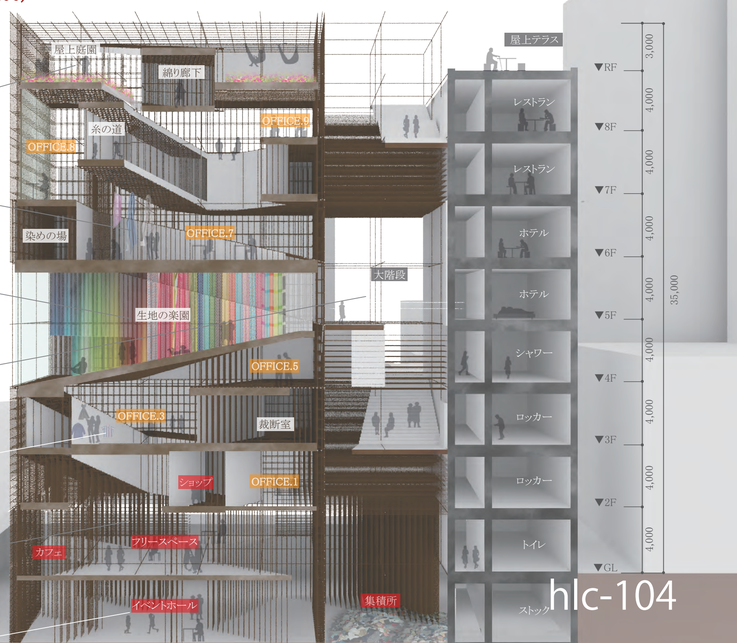
裏ノ裏参道の顔
ファサードにも現れてくる、この建築のメイン空間。美しい生地が内部から外部へと、ファッションの魅力を伝えていく。

第３の動線
上下の動線となるだけでなく、メイン棟とコア棟を繋ぐ。4mの幅を持ち、ケヤキを望みながら座ってくつろぐことができる。

空間の関係
裏ノ裏参道との境界壁を利用して、ディスカッションができる。またその他のオフィスと空間的に繋がることで関係を築く。

人々を呼び込む仕掛け
敷地の軸を引き込んだクロスブリッジのスペース、見下ろすとイベント、見上げればオフィスや裏ノ裏参道から人々の動きが見える。

周辺を巻き込む仕掛け
ファッションショーやバザーなど様々な企画に対応する地下空間。鉄筋の柱が美しい光と影を演出する。



hlc-104